

# ドイツにおける政党政治の 動向に関する一考察

——州レベルを中心に、州議会選挙の結果（1991－  
2020年）から見える全般的動向と、近年における  
新たな連立の状況（2014－2020年）（1）——

津 崎 直 人

## はじめに

戦後ドイツの政党システムは、1970年代末まではキリスト教民主・社会同盟（CDU/CSU）、社会民主党（SPD）、自由民主党（FDP）による3党体制であったが、80年代には緑の党が加わって4党体制となり、90年代に左翼党が加わって5党体制となり<sup>1)</sup>、そして、2010年代半ばからドイツのための選択肢（AfD）が加わって、現在、6党体制となっている。政党数の増加と、右翼政党のAfDの躍進によってドイツ政治は不安定性を高めているが、連邦制国家のドイツでは州レベルの政治や選挙が全国（連邦）レベルの政治に大きな影響を及ぼすことが多いため、ドイツ政治を理解するためには州レベルにも十分に注意する必要がある。とくに、政党数の増加による政治の不安定化は州レベルでも大きな問題となっており、そのような不安定化が全国レベルの政治をさらに不安定化させる現象が見られるようになっていることから、州レベルの動向に注意する必要性は一層高まっている。

1) 左翼党の以前の名称は民主社会党（PDS）であったが、本稿では煩雑さを避けるため民主社会党であった時期についても「左翼党」と表記することとする。

そのような現象として、最近では以下のものがとくに重大である。まず、2018年10月に実施されたバイエルン、ヘッセン州議会選挙における CDU/CSU の大敗の責任をとって、メルケル (Angela Merkel) が党首辞任と、次の連邦議会選挙では首相候補にならないことを表明し、退陣に追い込まれた。後継の党首に選ばれたクランプ=カレンバウアー (Annegret Kramp-Karrenbauer) も、テューリンゲン州議会選挙 (2019年10月) 後の同州における政治危機の責任をとって年内の党首辞任を表明 (2020年2月10日)、わずかに約1年で党首辞任に追い込まれる異例の事態となった。CDU/CSU が混迷を深めているだけではなく、第一党の混乱は他党にも影響を及ぼし、ドイツ政治全体が不透明な状況に陥っているが、これらの主な原因の一つは州レベルの政治の不安定化にある。

したがって、州レベルにも十分に注意する必要がある。そして、州レベルにおける政党政治の不安定化を中心とする上記の諸問題は、とくに、各州における政党間の力関係の変化によってもたらされている。変化について理解するために、本稿ではまず第1章において、東西ドイツ統一 (1990年10月3日) 後、1991年から現在 (2020年5月時点) に至るまでの時期において実施された、全16州における州議会選挙の結果を分析する。結論の一部を先取りすれば、2大政党であった CDU/CSU と SPD の得票率が低下し続ける一方、とくに2010年代半ば以降、AfD の得票率が急激に上昇している (という、連邦議会選挙と同様の) 変化を確認できるであろう。

そのような変化が各州の政治にもたらした最も重要な帰結の一つは、連立の多様化である。従来は単独政権が成立し得ない限り、連立の基本的な組み合わせは (原則として) 以下のものに限定されていた (なお、CDU/CSU について、州レベルでは、CSU はバイエルン州においてのみ存在し、その他の15州では CDU だけが活動している)。すなわち、CDU と SPD (いわゆる「大連立」)、CDU と FDP、SPD と FDP、SPD と緑の党 (いわゆる「赤緑」連立) (また、バイエルン州でも CSU は SPD、あるいは FDP と連立を組むことがあった)。しかし、2010年代半ば以降では、CDU/CSU と

SPD の得票率低下、および AfD の躍進によってこれらの連立で過半数に達することが難しくなっているため、代わりに、これまでに見られなかった新たな、多様な連立が形成されるようになっている。政治の不安定化に対処するために各州では、言わば、様々な実験が進められている最中であるが、そのような実験は全国（連邦）レベルの政治にも様々な影響を及ぼすであろう。第 2 章では、2014 年以降に各州で見られるようになった新たな連立の状況について個別に検討する。

なお、ドイツの州レベルの政治や選挙に関する先行研究は無論、数多くあるが、本稿の分析手法をとった研究は管見の限り、見当たらない。とくに第 2 章で扱う最新の諸問題については先行研究が乏しく、情報源としては各種メディアのニュース記事等に依拠することとする<sup>2)</sup>。

## 第 1 章 州議会選挙の結果（1991－2020 年）から見える全般的動向

### (1) 16 州の州議会選挙の結果（1991－2020 年）に関するデータ収集と分析

全 16 州の州議会選挙の結果（1991－2020 年）を分析するために、以下の方法をとる。まず、各州の州議会の任期は、現在、プレーメン（4 年）の他は、すべて 5 年である（プレーメン、ハンブルク、ベルリンは州と同格である。プレーメン以外でも、任期が 4 年であった州もあったが、現在では 5 年になっている）。5 年ごとに（プレーメンでは 4 年ごとに）任期満了に伴う総選挙が実施される。つまり、16 州の州議会選挙は、全体として（概ね）5 年で一つのサイクルを経ることになる。そこで、1991 年から 2020 年までの 20 年間の時期を 5 年ごとに区切り、以下の各時期に区分する。

---

2) 全 16 州における議会政治に関する研究として、Siegfried Mielke und Werner Reutter (Hrsg.), *Landesparlamentarismus: Geschichte, Struktur, Funktionen* (2., durchgesehene und aktualisierte Auflage), Wiesbaden, VS Verlag für Sozialwissenschaften, 2012.

- (1) 1991 - 1995年
- (2) 1996 - 2000年
- (3) 2001 - 2005年
- (4) 2006 - 2010年
- (5) 2011 - 2015年
- (6) 2016 - 2020年

以上の六つの時期のいずれにおいても、全ての州において（原則として）1回、総選挙が実施されている。この時期区分を、長期的動向（1991 - 2020年）を把握するための基礎的な単位として利用し、時期ごとに、全16州の選挙結果のデータを収集する。

収集するべき、最も重要なデータは上記の問題関心（政党間の力関係の変化）から、各政党の得票率、獲得議席数となる。ドイツでは州議会選挙でも比例代表制と、いわゆる阻止条項（得票率が5%以上でなければ議席配分を認められない）が採用されているため、得票率がそのまま獲得議席数に反映されるとは限らない。そのため、厳密にはこれらの二つの数値を分けて考える必要がある。したがって、いずれの州についても得票率、獲得議席数の両方についてデータを収集し、表で記載することとする。ただし、一つの表でまとめて記載すれば、やや分かりづらくなるため、全ての時期について、二つの表に分けて記載する。その他、首班政党（州首相のポストを獲得した政党）、与党（単独、もしくは、連立の場合は参加した全政党）、投票率についてもデータを収集する。

以上の方法で（1）から（6）までの時期ごとにデータを収集し、表1 - 1（時期（1）、全16州における各政党の得票率）、表1 - 2（時期（1）、全16州における各政党の獲得議席数）から、表6 - 1（時期（6）、全16州における各政党の得票率）、表6 - 2（時期（6）、全16州における各政党の獲得議席数）において記載する。なお、州によっては、任期が4年である（あった）ため、もしくは任期途中での解散総選挙が実施されたため、一つ

の時期に2回、総選挙が実施されたことがあったが、この場合はそれぞれの時期の表でも、2回分を分けて記載することとする。いずれの時期についても各政党について、得票率、獲得議席数の、全16州の平均値も記載する。また、AfDが結党されたのは2013年であったため、(1)から(4)の時期における表ではAfDについては全く記載しないことにする。

表で用いられている略語について、凡例は以下のとおりである。

・州の名前

BW：バーデン＝ヴュルテンベルク

BY：バイエルン

BE：ベルリン

BB：ブランデンブルク

HB：ブレーメン

HH：ハンブルク

HE：ヘッセン

MV：メクレンブルク＝フォアポンメルン

NI：ニーダーザクセン

NW：ノルトライン＝ヴェストファーレン

RP：ラインラント＝プファルツ

SL：ザールラント

SN：ザクセン

ST：ザクセン＝アンハルト

SH：シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン

TH：テューリンゲン

・政党の名前

C：CDU、ただしバイエルン州のみ CSU

S：SPD

F：FDP

G：緑の党

L：左翼党

A：AfD

se：その他

- ・「与党」は選挙後に成立した政権の与党、得票率（獲得議席数）が多い順に記載

表1-1 1991-1995年の時期に実施された州議会選挙の結果：各政党の得票率

州	選挙が実施された年	首班政党	与党	C	S	F	G	L	se	総議席数	投票率
BW	92	C	CS	39.6	29.4	5.9	9.5	/	15.7	146	70.1
BY	94	C	C	52.8	30.0	2.8	6.1	/	8.3	204	67.9
BE	95	C	CS	37.4	23.6	2.5	13.2	14.6	8.4	206	68.6
BB	94	S	S	18.7	54.1	2.2	2.9	18.7	3.3	88	56.3
HB	91	S	SGF	30.7	38.8	9.5	11.4	/	9.7	100	72.2
	95	S	SC	32.6	33.4	3.4	13.1	2.4	15.3	100	68.6
HH	91	S	S	35.1	48.0	5.4	7.2	0.5	3.8	121	66.1
	93	S	Sse	25.1	40.4	4.2	13.5	0.5	16.3	121	69.6
HE	91	S	SG	40.2	40.8	7.4	8.8	/	4.5	110	70.8
	95	S	SG	39.2	38.0	7.4	11.2	/	3.9	110	66.3
MV	94	C	CS	37.7	29.5	3.8	3.7	22.7	2.7	71	72.9
NI	94	S	S	36.4	44.3	4.4	7.4	/	7.5	161	73.8
NW	95	S	SG	37.7	46.0	4.0	10.0	/	2.3	221	64.0
RP	91	S	SF	38.7	44.8	6.9	6.5	/	3.1	101	73.9
SL	94	S	S	38.6	49.4	2.1	5.5	/	4.4	51	83.5
SN	94	C	C	58.1	16.6	1.7	4.1	16.5	3.0	120	58.4
ST	94	S	SG	34.4	34.0	3.6	5.1	19.9	3.1	99	54.8
SH	92	S	S	33.8	46.2	5.6	4.97	/	9.5	89	71.7
TH	94	C	CS	42.6	29.6	3.2	4.5	16.6	3.6	88	74.8
平均				37.3	37.7	4.5	7.8	5.9	6.8	121.4	68.6

- ・平均値は、小数点第2位以下は四捨五入（以下同）。
- ・se（その他）の数値は、その他の政党が二つ以上あった場合、合計値（以下同）。
- ・出典：<<https://www.wahlrecht.de/ergebnisse/index.htm>>の各ページに基づいて筆者が作成（最終閲覧日：2020年5月25日）。首班政党、与党については各州のホームページ等を参照した（以下同（表6-2まで））。

津崎：ドイツにおける政党政治の動向に関する一考察

表 1 - 2 1991 - 1995年の時期に実施された州議会選挙の結果：各政党の獲得議席数

州	選挙が実施された年	首班政党	与党	C	S	F	G	L	se	総議席数	投票率
BW	92	C	CS	64	46	8	13		15	146	70.1
BY	94	C	C	120	70	0	14		0	204	67.9
BE	95	C	CS	87	55	0	30	34	0	206	68.6
BB	94	S	S	18	52	0	0	18	0	88	56.3
HB	91	S	SGF	32	41	10	11		6	100	72.2
	95	S	SC	37	37	0	14	0	12	100	68.6
HH	91	S	S	44	61	7	9	0	0	121	66.1
	93	Sse	S	36	58	0	19	0	8	121	69.6
HE	91	S	SG	46	46	8	10		0	110	70.8
	95	S	SG	45	44	8	13		0	110	66.3
MV	94	C	CS	30	23	0	0	18	0	71	72.9
NI	94	S	S	67	81	0	13		0	161	73.8
NW	95	S	SG	89	108	0	24		0	221	64.0
RP	91	S	SF	40	47	7	7		0	101	73.9
SL	94	S	S	21	27	0	3		0	51	83.5
SN	94	C	C	77	22	0	0	21	0	120	58.4
ST	94	S	SG	37	36	0	5	21	0	99	54.8
SH	92	S	S	32	45	5	0		1	89	71.7
TH	94	C	CS	42	29	0	0	17	0	88	74.8
計				964	928	53	185	129	42	2,307	
平均				50.7	48.8	2.8	9.7	6.8	2.2	121.4	68.6
占有率				42.7	40.2	2.3	8.0	5.6	1.8		

・占有率については、小数点第2位以下は四捨五入（以下同）。

表2-1 1996-2000年の時期に実施された州議会選挙の結果：各政党の得票率

州	選挙が実施された年	首班政党	与党	C	S	F	G	L	se	総議席数	投票率
BW	96	C	CF	41.3	25.1	9.6	12.1	/	12.1	155	67.5
BY	98	C	C	52.9	28.7	1.7	5.7	/	11.0	204	70.0
BE	99	C	CS	40.8	22.4	2.2	9.9	17.7	7.0	169	65.5
BB	99	S	SC	26.6	39.3	1.9	1.9	23.3	7.0	89	54.3
HB	99	S	SC	37.1	42.6	2.5	9.0	2.9	5.9	100	60.1
HH	97	SG	SG	30.7	36.2	3.5	13.9	0.7	14.9	121	69.5
HE	99	C	CF	43.4	39.4	5.1	7.2	/	4.9	110	66.4
MV	98	S	SL	30.2	34.3	1.6	2.7	24.4	6.9	71	79.4
NI	98	S	S	35.9	47.9	4.9	7.0	/	4.3	157	73.8
NW	00	S	SG	37.0	42.8	9.8	7.1	1.1	2.1	231	56.7
RP	96	S	SF	38.7	39.8	8.9	6.9	/	5.7	101	70.8
SL	99	C	C	45.5	44.4	2.6	3.2	0.8	3.5	51	68.7
SN	99	C	C	56.9	10.7	1.1	2.6	22.2	6.5	120	61.1
ST	98	S	S	22.0	35.9	4.2	3.2	19.6	15.1	116	71.7
SH	00	S	SG	35.2	43.1	7.6	6.2	1.4	6.4	89	69.5
	96	S	SG	37.2	39.8	5.7	8.1	/	9.2	75	71.8
TH	99	C	C	51.0	18.5	1.1	1.9	21.4	6.2	88	59.9
平均				39.0	34.8	4.4	6.4	8.0	7.6	120.4	66.9

津崎：ドイツにおける政党政治の動向に関する一考察

表 2 - 2 1996 - 2000年の時期に実施された州議会選挙の結果：各政党の獲得議席数

州	選挙が実施された年	首班政党	与党	C	S	F	G	L	se	総議席数	投票率
BW	96	C	CF	69	39	14	19		14	155	67.5
BY	98	C	C	123	67	0	14		0	204	70.0
BE	99	C	CS	76	42	0	18	33	0	169	65.5
BB	99	S	SC	25	37	0	0	22	5	89	54.3
HB	99	S	SC	42	47	0	10	0	1	100	60.1
HH	97	SG	SG	46	54	0	21	0	0	121	69.5
HE	99	C	CF	50	46	6	8		0	110	66.4
MV	98	S	SL	24	27	0	0	20	0	71	79.4
NI	98	S	S	62	83	0	12		0	157	73.8
NW	00	S	SG	88	102	24	17	0	0	231	56.7
RP	96	S	SF	41	43	10	7		0	101	70.8
SL	99	C	C	26	25	0	0	0	0	51	68.7
SN	99	C	C	76	14	0	0	30	0	120	61.1
ST	98	S	S	28	47	0	0	25	16	116	71.7
SH	00	S	SG	33	41	7	5	0	3	89	69.5
	96	S	SG	30	33	4	6		2	75	71.8
TH	99	C	C	49	18	0	0	21	0	88	59.9
計				888	765	65	137	151	41	2,047	
平均				52.2	45	3.8	8.1	8.9	2.4	120.4	66.9
占有率				43.4	37.4	3.2	6.7	7.4	2.0		

表3-1 2001-2005年の時期に実施された州議会選挙の結果：各政党の得票率

州	選挙が実施された年	首班政党	与党	C	S	F	G	L	se	総議席数	投票率
BW	01	C	CF	44.8	33.3	8.1	7.7	/	6.1	128	62.6
BY	03	C	C	60.7	19.6	2.6	7.7	/	9.4	180	57.1
BE	01	S	SL	23.8	29.7	9.9	9.1	22.6	4.9	141	68.1
BB	04	S	SC	19.4	31.9	3.3	3.6	28.0	13.8	88	56.4
HB	03	S	SC	29.8	42.3	4.2	12.8	1.7	9.3	83	61.3
HH	01	C	CseF	26.2	36.5	5.1	8.6	0.4	23.2	121	71.0
	04	C	C	47.2	30.5	2.8	12.3	/	7.2	121	68.7
HE	03	C	C	48.8	29.1	7.9	10.1	/	4.2	110	64.6
MV	02	S	SL	31.4	40.6	4.7	2.6	16.4	4.3	71	70.6
NI	03	C	CF	48.3	33.4	8.1	7.6	0.5	2.0	183	67.0
NW	05	C	CF	44.8	37.1	6.2	6.2	0.9	4.8	187	63.0
RP	01	S	SF	35.3	44.7	7.8	5.2	/	6.9	101	62.1
SL	04	C	C	47.5	30.8	5.2	5.6	2.3	8.6	51	55.5
SN	04	C	CS	41.1	9.8	5.9	5.1	23.6	14.4	124	59.6
ST	02	C	CF	37.3	20.0	13.3	2.0	20.4	6.9	115	56.5
SH	05	C	CS	40.2	38.7	6.6	6.2	0.8	7.5	69	66.5
TH	04	C	C	43.0	14.5	3.6	4.5	26.1	8.4	88	53.8
平均				39.4	30.7	6.2	6.9	8.5	8.3	115.4	62.6

津崎：ドイツにおける政党政治の動向に関する一考察

表3-2 2001-2005年の時期に実施された州議会選挙の結果：各政党の獲得議席数

州	選挙が実施された年	首班政党	与党	C	S	F	G	L	se	総議席数	投票率
BW	01	C	CF	63	45	10	10	/	0	128	62.6
BY	03	C	C	124	41	0	15	/	0	180	57.1
BE	01	S	SL	35	44	15	14	33	0	141	68.1
BB	04	S	SC	20	33	0	0	29	6	88	56.4
HB	03	S	SC	29	40	1	12	0	0	83	61.3
HH	01	C	CseF	33	46	6	11	0	25	121	71.0
	04	C	C	63	41	0	17	/	0	121	68.7
HE	03	C	C	56	33	9	12	/	0	110	64.6
MV	02	S	SL	25	33	0	0	13	0	71	70.6
NI	03	C	CF	91	63	15	14	0	0	183	67.0
NW	05	C	CF	89	74	12	12	0	0	187	63.0
RP	01	S	SF	38	49	8	6	/	0	101	62.1
SL	04	C	C	27	18	3	3	0	0	51	55.5
SN	04	C	CS	55	13	7	6	31	12	124	59.6
ST	02	C	CF	48	25	17	0	25	0	115	56.5
SH	05	C	CS→C	30	29	4	4	0	2	69	66.5
TH	04	C	C	45	15	0	0	28	0	88	53.8
計				871	642	107	136	159	45	1,961	/
平均				51.2	37.7	6.3	8	9.4	2.6	115.4	62.6
占有率				44.4	32.7	5.5	6.9	8.1	2.3		

表4-1 2006-2010年の時期に実施された州議会選挙の結果：各政党の得票率

州	選挙が実施された年	首班政党	与党	C	S	F	G	L	se	総議席数	投票率
BW	06	C	CF	44.2	25.2	10.7	11.7	3.1	5.2	139	53.4
BY	08	C	CF	43.4	18.6	8.0	9.4	4.4	16.3	187	57.9
BE	06	S	SL	21.3	30.8	7.6	13.1	13.4	13.7	149	58.0
BB	09	S	SL	19.8	33.0	7.2	5.7	27.2	7.3	88	67.0
HB	07	S	SG	25.6	36.7	6.0	16.5	8.4	6.6	83	57.6
HH	08	C	CG	42.6	34.1	4.8	9.6	6.4	2.5	121	63.5
HE	08	C	C	36.8	36.7	9.4	7.5	5.1	4.4	110	64.3
	09	C	CF	37.2	23.7	16.2	13.7	5.4	3.8	118	61.0
MV	06	S	SC	28.8	30.2	9.6	3.4	16.8	11.3	71	59.1
NI	08	C	CF	42.5	30.3	8.2	8.0	7.1	3.9	152	57.1
NW	10	S	SG	34.6	34.5	6.7	12.1	5.6	6.5	181	59.3
RP	06	S	S	32.8	45.6	8.0	4.6	2.5	6.4	101	58.2
SL	09	C	CFG	34.5	24.5	9.2	5.9	21.3	4.6	51	67.7
SN	09	C	CF	40.2	10.4	10.0	6.4	20.6	12.5	132	52.2
ST	06	C	CS	36.2	21.4	6.7	3.6	24.1	8.0	97	44.4
SH	09	C	CF	31.5	25.4	14.9	12.4	6.0	9.6	95	73.6
TH	09	C	CS	31.2	18.5	7.6	6.2	27.4	9.0	88	56.2
平均				34.3	28.2	8.9	8.8	12.0	7.7	115.5	59.4

津崎：ドイツにおける政党政治の動向に関する一考察

表4-2 2006-2010年の時期に実施された州議会選挙の結果：各政党の獲得議席数

州	選挙が実施された年	首班政党	与党	C	S	F	G	L	se	総議席数	投票率
BW	06	C	CF	69	38	15	17	0	0	139	53.4
BY	08	C	CF	92	39	16	19	0	21	187	57.9
BE	06	S	SL	37	53	13	23	23	0	149	58.0
BB	09	S	SL	19	31	7	5	26	0	88	67.0
HB	07	S	SG	23	32	5	14	7	0	83	57.6
HH	08	C	CG	56	45	0	12	8	0	121	63.5
HE	08	C	C	42	42	11	9	6	0	110	64.3
	09	C	CF	46	29	20	17	6	0	118	61.0
MV	06	S	SC	22	23	7	0	13	7	71	59.1
NI	08	C	CF	68	48	13	12	11	0	152	57.1
NW	10	S	SG	67	67	13	23	11	0	181	59.3
RP	06	S	S	38	53	10	0	0	0	101	58.2
SL	09	C	CFG	19	13	5	3	11	0	51	67.7
SN	09	C	CF	58	14	14	9	29	8	132	52.2
ST	06	C	CS	40	24	7	0	26	0	97	44.4
SH	09	C	CF	34	25	14	12	6	4	95	73.6
TH	09	C	CS	30	18	7	6	27	0	88	56.2
計				760	594	177	181	210	40	1,963	
平均				44.7	34.9	10.4	10.6	12.4	2.4	115.5	59.4
占有率				38.7	30.3	9.0	9.2	10.7	2.0		

表5-1 2011-2015年の時期に実施された州議会選挙の結果：各政党の得票率

州	選挙が実施された年	首班政党	与党	C	S	F	G	L	A	se	総議席数	投票率
BW	11	G	GS	39.0	23.1	5.3	24.2	2.8	/	5.6	138	66.2
BY	13	C	C	47.7	20.6	3.3	8.6	2.1	/	17.6	180	63.6
BE	11	S	SC	23.4	28.3	1.8	17.6	11.7	/	17.2	149	60.2
BB	14	S	SL	23.0	31.9	1.5	6.2	18.6	12.2	6.3	88	47.9
HB	11	S	SG	20.4	38.6	2.4	22.5	5.6	/	10.6	83	55.5
	15	S	SG	22.4	32.8	6.6	15.1	9.5	5.5	8.0	83	50.2
HH	11	S	S	21.9	48.4	6.7	11.2	6.4	/	5.5	121	57.3
	15	S	SG	15.9	45.6	7.4	12.3	8.5	6.1	4.2	121	56.5
HE	13	C	CG	38.3	30.7	5.0	11.1	5.2	4.1	5.5	110	73.2
MV	11	S	SC	23.0	35.6	2.8	8.7	18.4	/	11.6	71	51.5
NI	13	S	SG	36.0	32.6	9.9	13.7	3.1	/	5.4	137	59.4
NW	12	S	SG	26.3	39.1	8.6	11.3	2.5	/	12.1	237	59.6
RP	11	S	SG	35.2	35.7	4.2	15.4	3.0	/	6.3	101	61.8
SL	12	C	CS	35.2	30.6	1.2	5.0	16.1	/	11.8	51	61.6
SN	14	C	CS	39.0	12.4	3.8	5.7	18.9	9.7	7.35	126	49.2
ST	11	C	CS	32.5	21.5	3.8	7.1	23.7	/	12.3	105	51.2
SH	12	S	SGse	30.8	30.4	8.2	13.2	2.3	/	15.2	69	60.2
TH	14	L	LSG	33.5	12.4	2.5	5.7	28.2	10.6	7.2	91	52.7
平均				30.2	30.6	4.7	11.9	10.4	2.7	9.4	114.5	57.7

津崎：ドイツにおける政党政治の動向に関する一考察

表5-2 2011-2015年の時期に実施された州議会選挙の結果：各政党の獲得議席数

州	選挙が実施された年	首班政党	与党	C	S	F	G	L	A	se	総議席数	投票率
BW	11	G	GS	60	35	7	36	0		0	138	66.2
BY	13	C	C	101	42	0	18	0		19	180	63.6
BE	11	S	SC	39	47	0	29	19		15	149	60.2
BB	14	S	SL	21	30	0	6	17	11	3	88	47.9
HB	11	S	SG	20	36	0	21	5		0	83	55.5
	15	S	SG	20	30	6	14	8	4	0	83	50.2
HH	11	S	S	28	62	9	14	8		0	121	57.3
	15	S	SG	20	58	9	15	11	8	0	121	56.5
HE	13	C	CG	47	37	6	14	6	0	0	110	73.2
MV	11	S	SC	18	27	0	7	14		5	71	51.5
NI	13	S	SG	54	49	14	20	0		0	137	59.4
NW	12	S	SG	67	99	22	29	0		20	237	59.6
RP	11	S	SG	41	42	0	18	0		0	101	61.8
SL	12	C	CS	19	17	0	2	9		4	51	61.6
SN	14	C	CS	59	18	0	8	27	14	0	126	49.2
ST	11	C	CS	41	26	0	9	29		0	105	51.2
SH	12	S	SGse	22	22	6	10	0		9	69	60.2
TH	14	L	LSG	34	12	0	6	28	11	0	91	52.7
計				711	689	79	276	181	48	75	2,061	
平均				39.5	38.3	4.4	15.3	10.1	2.7	4.2	114.5	57.7
占有率				34.5	34.3	3.8	13.4	8.8	2.3	3.6		

表6-1 2016-2020年の時期に実施された州議会選挙の結果：各政党の得票率

州	選挙が実施された年	首班政党	与党	C	S	F	G	L	A	se	総議席数	投票率
BW	16	G	GC	27.0	12.7	8.3	30.3	2.9	15.1	3.7	143	70.4
BY	18	C	Cse	37.2	9.7	5.1	17.5	3.2	10.2	15.3	205	72.4
BE	16	S	SGL	17.6	21.6	6.7	15.2	15.6	14.2	9.1	160	66.9
BB	19	S	SCG	15.6	26.2	4.1	10.8	10.7	23.5	5.7	88	61.3
HB	19	S	SGL	26.7	24.9	5.9	17.4	11.3	6.1	7.7	84	64.1
HH	20	S	SG	11.2	39.2	4.9	24.2	9.1	5.3	6.1	123	63.2
HE	18	C	CG	27.0	19.8	7.5	19.8	6.3	13.1	6.5	137	67.3
MV	16	S	SC	19.0	30.6	3.0	4.8	13.2	20.8	8.7	71	61.6
NI	17	S	SC	33.6	36.9	7.5	8.7	4.6	6.2	2.4	137	63.1
NW	17	C	CF	33.0	31.2	12.6	6.4	4.9	7.4	1.4	199	65.2
RP	16	S	SFG	31.8	36.2	6.2	5.3	2.8	12.6	5.1	101	70.4
SL	17	C	CS	40.7	29.6	3.3	4.0	12.8	6.2	3.3	51	69.7
SN	19	C	CGS	32.1	7.7	4.5	8.6	10.4	27.5	2.4	119	66.6
ST	16	C	CSG	29.8	10.6	4.9	5.2	16.3	24.3	9.0	87	61.1
SH	17	C	CFG	32.0	27.2	11.5	12.9	3.8	5.9	6.8	73	64.2
TH	19	L	LSG	21.8	8.2	5.0	5.2	31.0	23.4	6.0	90	64.9
平均	/			27.3	23.3	6.3	12.3	9.9	13.9	6.2	116.8	65.8

・テューリンゲン (TH) 州議会選挙後に FDP の政治家が首相に選出されたが直ちに辞任したため、首班政党として表記していない。

津崎：ドイツにおける政党政治の動向に関する一考察

表6-2 2016-2020年の時期に実施された州議会選挙の結果：各政党の獲得議席数

州	選挙が実施された年	首班政党	与党	C	S	F	G	L	A	se	総議席数	投票率
BW	16	G	GC	42	19	12	47	0	23	0	143	70.4
BY	18	C	Cse	85	22	11	38	0	22	27	205	72.4
BE	16	S	SGL	31	38	12	27	27	25	0	160	66.9
BB	19	S	SCG	15	25	0	10	10	23	5	88	61.3
HB	19	S	SGL	24	23	5	16	10	5	1	84	64.1
HH	20	S	SG	15	54	1	33	13	7	0	123	63.2
HE	18	C	CG	40	29	11	29	9	19	0	137	67.3
MV	16	S	SC	16	26	0	0	11	18	0	71	61.6
NI	17	S	SC	50	55	11	12	0	9	0	137	63.1
NW	17	C	CF	72	69	28	14	0	16	0	199	65.2
RP	16	S	SFG	35	39	7	6	0	14	0	101	70.4
SL	17	C	CS	24	17	0	0	7	3	0	51	69.7
SN	19	C	CGS	45	10	0	12	14	38	0	119	66.6
ST	16	C	CSG	30	11	0	5	16	25	0	87	61.1
SH	17	C	CFG	25	21	9	10	0	5	3	73	64.2
TH	19	L	LSG	21	8	5	5	29	22	0	90	64.9
計				570	466	112	264	146	274	36	1,868	
平均				35.6	29.1	7	16.5	9.1	17.1	2.3	116.8	65.8
占有率				30.5	24.9	6.0	14.1	7.8	14.7	1.9		

以上の表1-1から6-1に基づき、時期ごとの、各政党の全16州における得票率の平均値をまとめた表7-1を作成する。同様に、表1-2から6-2に基づき、全16州における議席占有率をまとめた表7-2を作成する。

表7-1と7-2から以下の長期的な傾向を看取できる。1991年以降、時期(3)(2001-2005年)まではCDU/CSUおよびSPDが二大政党とし

表7-1 各政党の全16州における得票率の平均値の変遷

	1991-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	2011-2015	2016-2020
CDU/CSU	37.3	39.0	39.4	34.3	30.2	27.3
SPD	37.7	34.8	30.7	28.2	30.6	23.3
FDP	4.5	4.4	6.2	8.9	4.7	6.3
G	7.8	6.4	6.9	8.8	11.9	12.3
L	5.9	8.0	8.5	12.0	10.4	9.9
AfD					2.7	13.9
se	6.8	7.6	8.3	7.7	9.4	6.2

・出典：表1-1から6-1に基づいて筆者が作成。

表7-2 各政党の全16州における議席占有率の変遷

	1991-1995	1996-2000	2001-2005	2006-2010	2011-2015	2016-2020
CDU/CSU	42.7	43.4	44.4	38.7	34.5	30.5
SPD	40.2	37.4	32.7	30.3	34.3	24.9
FDP	2.3	3.2	5.5	9.0	3.8	6.0
G	8.0	6.7	6.9	9.2	13.4	14.1
L	5.6	7.4	8.1	10.7	8.8	7.8
AfD					2.3	14.7
se	1.8	2.0	2.3	2.0	3.6	1.9

・出典：表1-2から6-2に基づいて筆者が作成。

津崎：ドイツにおける政党政治の動向に関する一考察

て得票率（議席占有率）を高い水準で維持していたが、その後低下させ始め、時期（6）（2016－2020年）でとくに大きく低下させている。とくに、SPDの弱体化が著しい。FDPは時期（4）（2006－2010年）までは勢力を概ね、少しずつではあるが伸ばし続けていたが、時期（5）で著しく弱体化した後、近年（時期（6））、復活しつつある。左翼党も時期（4）までは勢力を概ね順調に伸ばし続けていたが、その後、低下させ続けている。緑の党は時期（4）までは伸び悩んでいたが、（5）以降、勢力を伸ばし続けている。既存の五つの政党のうち、時期（5）以降になって勢力を伸ばしている政党は緑の党だけである。

そして、近年、AfDが急激に勢力を伸ばしており、現在（時期（6））、得票率および議席占有率のランキングにおいて、CDU/CSU（1位）、SPD（2位）に次いで第3位となっている（4位：緑の党、5位：左翼党、6位：FDP）。ただし、表6－1からわかるとおりAfDがとくに有力となっている（得票率が20%を超えている）州は旧東ドイツ（以下「東独」）地域の5州に限定されており、あらゆる州で均等に勢力を伸ばしている訳ではない（それでも後述のとおり、旧東独地域の5州における台頭だけでも、全国（連邦）レベルに大きな影響を及ぼし得るようになってきている。旧東独

表8－1 連邦議会選挙における各政党の得票率の変遷（1994－2017年）

	1994	1998	2002	2005	2009	2013	2017
CDU/CSU	41.4	35.1	38.5	35.2	33.8	41.5	32.9
SPD	36.4	40.9	38.5	34.2	23.0	25.7	20.5
FDP	6.9	6.2	7.4	9.8	14.6	4.8	10.7
G	7.3	6.7	8.6	8.1	10.7	8.4	8.9
L	4.4	5.1	4.0	8.7	11.9	8.6	9.2
AfD						4.7	12.6
se	3.6	5.9	3.0	4.0	6.0	6.4	5.0

・出典：<<https://www.wahlrecht.de/ergebnisse/bundestag.htm>>に基づいて筆者が作成（最終閲覧日：2020年5月25日）。

表8-2 連邦議会選挙における各政党の議席占有率の変遷（1994-2017年）

	1994	1998	2002	2005	2009	2013	2017
CDU/CSU	43.8	36.6	41.1	36.8	38.4	49.3	34.7
SPD	37.5	44.5	41.6	36.2	23.5	30.6	21.6
FDP	7.0	6.4	7.8	9.9	15.0	0	11.3
G	7.3	7.0	9.1	8.3	10.9	10.0	9.4
L	4.5	5.4	0.3	8.8	12.2	10.1	9.7
AfD						0	13.3
se	0	0	0	0	0	0	0

・ 出典：<<https://www.wahlrecht.de/ergebnisse/bundestag.htm>>に基づいて筆者が作成（最終閲覧日：2020年5月25日）。

地域の5州は以下のとおり。ブランデンブルク、メクレンブルク＝フォアポンメルン、ザクセン、ザクセン＝アンハルト、テューリンゲン）。

以上のような州レベルの長期的な傾向は、連邦（全国）レベルの長期的な傾向と概ね一致している（連邦レベルにおける長期的な傾向は、表8に記載した、連邦議会選挙（1994-2017年）における各政党の得票率、議席占有率で確認できる）。ただし、上記の、州レベルの長期的傾向は、全16州における各政党の得票率の平均値および議席占有率という、画一化されたデータから看取されたものであり、それぞれの州についてより詳しく見れば、無論、連邦レベルとは異なる、州ごとに異なる多様なあり方が見えてくる。

## (2) 連立の多様化

とくに、州ごとに連立形成のあり方は大きく異なっており、とくに時期(6)になってから、これまではなかった連立が多数、形成されるようになってきている。表9において、(1)から(6)までの時期のそれぞれにおいて、どのような連立が形成されていたかをまとめて記載する。表の各セル内の数値は、連立が形成された数を示しているが、基本的には、左端の列

津崎：ドイツにおける政党政治の動向に関する一考察

表9 全16州における連立の変遷（1991-2020年）

	1991- 1995	1996- 2000	2001- 2005	2006- 2010	2011- 2015	2016- 2020
CDU (CSU) 単独	2	4	5	1	1	0
SPD 単独	5	2	0	1	1	0
CS (大連立)	5 CS : 4 SC : 1	3 CS : 1 SC : 2	4 CS : 2 SC : 2	3 CS : 2 SC : 1	5 CS : 3 SC : 2	3 CS : 1 SC : 2
CF (黒黄)	0	2	4	6	0	1
SF (赤黄)	1	1	1	0	0	0
SG (赤緑)	4	4	0	2	7 SG : 6 GS : 1	1 SG : 1
SL (赤赤)	0	1	2	2	1	0
SGL (赤赤緑)	0	0	0	0	1 LSG : 1	3 SGL : 2 LSG : 1
CG (黒緑)	0	0	0	1	1	2 CG : 1 GC : 1
CFG (ジャマイカ)	0	0	0	1	0	1 CGF : 1
CSG (ケニア)	0	0	0	0	0	3 CSG : 1 SCG : 1 CGS : 1
SFG (信号)	1 SGF : 1	0	0	0	0	1
その他	1	0	1	0	1	1

・出典：表1-1から6-1に基づいて筆者が作成。

で記載されている名称とおりの連立の数である。例えば、時期(1)においてCS(大連立)が形成された州の数は五つである。ただし、S(社会民主党)の議席数がC(キリスト教民主同盟)の議席数を上回っている場合、セル内ではSCと記載し、CS(Cの議席数がSよりも多い)とSCの数を分けて記載することとする。例えば時期(1)ではCSは四つ、SCは一つ(計、大連立の数は五つ)となる。他のセルについても同様である。同じ政党どうしの連立でも、どちらが多く議席数を有するかで連立の性質も無論、異なる。

時期(4)までは(冷戦期を含め)単独政権が成立しない限り、連立の基本的なパターンはCS, CF, SF, SGの四つに限定され、それ以外の連立は例外的であった。しかし現在、時期(6)になってからは、それら以外に6種類の連立(SGL, CG, CFG, CSG, SFG, その他)が、11の州で成立しており、従来型の連立が維持されている州の数は五つに過ぎなくなっている。

なお、ドイツでは連立のあり方は各政党のシンボルカラーで表現されることも多い。CDU(CSU)のシンボルカラーは黒、SPDは赤、FDPは黄、緑の党は(そのまま)緑、左翼党は赤のため、CS(大連立)は「黒赤」連立、CFは「黒黄」、SFは「赤黄」、SGは「赤緑」とも表現される。新たな連立である、SLは「赤赤」、SGLは「赤赤緑」、CGは「黒緑」とも表現される。ただしCGでも、Gの議席数がCを上回る新たな連立がバーデン＝ヴュルテンベルク州で成立したが、この場合は「緑黒」、もしくは「キウイ」連立とも呼ばれる(緑>黒のため)。CFGは黒黄緑だが、ジャマイカの国旗で使われている3色のため、「ジャマイカ」連立と呼ばれることが一般的であり、同様の理由からCSG(黒赤緑)は「ケニア」連立と呼ばれる。SFG(赤黄緑)は「信号」連立と呼ばれることも多い。

従来型の連立の数が減り、新たな連立が増えていることの、最も重要な諸理由はCDU/CSUとSPDの得票率(獲得議席数)が下がっている一方、AfDが躍進しているからである(また、後述のとおり緑の党が勢力を伸ば

していることも重要である)。すなわち、まず、CDU (CSU) と SPD は勢力を弱めているものの、多くの州でいまだに有力で連立形成の主導権を握っているが、従来型の連立では過半数に達しないため、他の諸政党も連立に加えることによって補う必要性が高まっている。従来型の連立は二つの政党によるものであったが、現在、三党連立が増えている理由はそのためである。ただし、CDU/CSU と SPD は AfD との連立を拒否しているため、過半数への不足分を補うために緑の党、左翼党の重要性が高まっている。とくに、緑の党が勢力を伸ばしているため、不足分を補うための連立相手としての重要性が高まっている。

また、CDU/CSU は左翼党との連立を忌避しているため、多くの州で、とくに CDU にとって緑の党の重要性が高まっている。CDU (CSU) と FDP という従来型の連立に緑の党を加えた「ジャマイカ」連立は、2017年の連邦議会選挙の後、一時、真剣にその成立が目指されたように、連邦レベルでも重視されるようになってきているが、州レベルではシュレースヴィヒ=ホルシュタイン州において2017年に実施された州議会選挙の後、成立した(それ以前に、ジャマイカ連立は2009年から2012年までザールラント州において成立していたが、これが、州レベルで成立した最初のジャマイカ連立であった)。CDU と緑の党の2党による連立は、ハンブルクにおいて2008年から2010年にかけて約2年半の間、短期間ながら存在したことがあったが(これが初の「黒緑」連立)、ヘッセン州で2013年9月に実施された州議会選挙の後、2014年1月に成立した黒緑連立は(約)5年間の任期を全うし、2018年10月に実施された州議会選挙を経て、現在、2期目に入っている(ハンブルクの黒緑政権は、両党間の対立のため任期途中での州議会解散で終了していた。ヘッセンの黒緑政権(2014-18)が、任期を全うした最初の黒緑政権である)。バーデン=ヴュルテンベルク州では2016年に実施された州議会選挙の後、上記のとおり緑の党が第一党として主導権を握る「キウイ(緑黒)」連立が成立した。

以上のように、近年、CDU にとって緑の党の重要性が高まっているが、

SPD は従来から緑の党との連立に積極的であっただけではなく、(とくに州レベルでは) 左翼党との連立も忌避せず、SPD と左翼党の連立である「赤赤」連立はメクレンブルク＝フォアポンメルン(1998-2006年)、ベルリン(2002-2011年)、ブランデンブルク(2009-2019年)で成立していた。しかし、とくにSPDの弱体化によって赤赤だけでは過半数に達することができなくなっているため、これに緑の党を加えた「赤赤緑」連立が、まずはテューリンゲン州で2014年に成立した(5年の任期を全うしたが、2019年に実施された州議会選挙の後、全国に波及する重大な政治危機を経験することになった)。赤赤緑連立はベルリン(2016年以降)、ブレーメン(2019年以降)でも成立している。

また、SPD と FDP という従来型の連立では過半数に達しないため、これに緑の党を加えた「信号」連立も2016年に実施された州議会選挙の後、ラインラント＝プファルツ州で見られるようになっていく。

そして、AfD が著しく勢力を伸ばしている旧東独地域では CDU と SPD の連立でさえ過半数に達することが難しくなっているため、これに緑の党を加えた「ケニア」連立がザクセン＝アンハルト(2016年以降)、ブランデンブルク(2019年以降)、ザクセン(2019年以降)の3州で見られるようになっていく。

総じて、得票率(獲得議席数)の低下を受けて CDU は緑の党にまで、SPD は左翼党にまで連立の対象を拡大せねばならなくなっているため、州レベルでは連立が多様化している。ただし、以上のような新たな連立で過半数に達することは可能であるとしても、本当にうまくいくのか。それらは、政権奪取または政権参加だけを目的とした単なる野合に過ぎないのか、あるいは、基本的なイデオロギーや諸政策の大きな違いにもかかわらず、連立の運営は安定し、成果を生み出しているのか。

CDU/CSU と SPD の得票率(獲得議席数)が低下しているため、新たな連立を模索せねばならないことは今後、連邦レベルでも重要な課題になると予測されるため(実際に上記のとおり、2017年の連邦議会選挙の後、

ジャマイカ連立の成立が真剣に目指された), 州レベルで試みられている多くの新たな連立は, 今後, 連邦レベルにも応用されるかもしれない, 言わば, 政治的実験としても重視されるようになっていく。そのため, それぞれについてより詳しく理解する価値が高い。次章では, とくに2014年以降に見られるようになった新たな連立である黒緑, 緑黒 (キウイ), ジャマイカ, 赤赤緑, 信号, ケニア連立が成立した諸州の動向について, より詳しく分析する。